

その いずみの園だより 56

vol.

2012.12.6

クリスマス号



それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、
いつまでも残る。その中で最も大きいものは
愛である。 コリントの信徒への手紙 I 13:13

基本理念

神と人にと仕えるキリスト教の愛と奉仕の精神を基本理念とする

①アメニティ(快適主義) ②ヒューマニティ(人間主義) ③ローカリティ(地域主義)

社会福祉法人 九州キリスト教社会福祉事業団
介護保険総合ケアセンターいずみの園

〒871-0162 大分県中津市永添 2744 TEL0979-23-1616 (代)
<http://www.izuminosono.jp> E-mail:sogocare@deluxe.ocn.ne.jp

ISO9001 認証取得



2002年3月26日
高齢者介護及び
リハビリテーションサービス



いずみの園 チャペル

「ご利用者様をお迎えするクリスマス」

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。(ヨハネによる福音書3章16節)

先月、あるキリスト教主義の高齢者施設で一人の女性が亡くなりました。牧師による生前の彼女の働きを紹介と静かな祈り、会衆の讃美歌によって天国にお送りすることができました。

告別式の最後にご長男から、「母親は晩年寝たきりでしたが、Mクリスマスチャンソールワーカーの献身的な働きによって本当に幸せな人生でした…。」と悲しみの中にあつて、確かな言葉で喪主として感謝の挨拶をされました。

神が独り子イエスを愛するように私たちが愛されました。このクリスマスチャンソールワーカーも我が子を愛するようにその年老いた女性を愛していました。それは、彼女の命を捉え、我が身に置き換え、この世の後にも先にも唯一の命として支援した心からのケアが家族に映ったことでしょうか。

ご利用者を大多数の中の一人として捉えるのではなく、一人ひとりが神様から選ばれ与えられた存在としてお迎えするという施設理念の堅持が重要であると思います。

「神様がこの世に来られ、我々がどのような態度で神様をお迎えするのか」という問題は、「ご利用者様がいずみの園に来られ、我々がどのような態度でご利用者様をお迎えするのか」という問題と同じ視点で捉える必要があります。ここにキリスト教主義福祉施設としてのあり方が問われてくると思うのです。

今年もクリスマスを迎えようとしています。イエス様の誕生の意味をしっかりと受け止め、「ひとり」に寄り添う魂のケアと祈りを主に捧げたいと思います。

祈 平安



社会福祉法人 九州キリスト教
社会福祉事業団

理 事
滝 口 真
(西九州大学大学院 教授)

当法人前理事長 多田一三先生を悼んで



2012年9月5日肝がんのため召天された多田先生は、1936年1月26日大阪市で出生、関西学院大学大学院神学研究科を修了後、1963年4月日本基督教団中津教会牧師に就任され(1990年退任・協力牧師に)、当法人グレース保育園長(1974年10月～1985年3月)にもなられました。また、法人常務理事(1980年2月～2006年3月)、いずみの園施設長(1985年4月～2001年3月)、同総合施設長(2001年4月～2006年3月)、法人理事長(2007年9月～2011年11月)の重責を務められました。

当法人は、三保育園の包括により九州キリスト教社会福祉事業団に改称されましたが、先生は1978年高齢者福祉へのニーズに応えるため、いずみの園の開設に大きく力を尽くされました。

先生の告別式は9月7日、日本基督教団中津教会葬(式場廣安慎太郎牧師)として当園いずみ館で執り行われました。

中津教会の牧師に就任され、爾来半世紀にわたってのグレース保育園や法人の発展に心血を注がれ、キリスト教のヒューマニズム精神に基づく社会福祉事業を实践された76年の生涯を讃え、多くの方に参列いただき献花されました。

お送りする言葉は先生が愛された聖句で、まさに多田先生の人生そのものでした。

詩編 126:5 涙と共に種を蒔く人は喜びの歌と共に刈り入れる。

126:6 種の袋を背負い、泣きながら出て行った人は束ねた穂を背負い喜びの歌を歌いながら帰ってくる。

多田一三前理事長の多大なるご貢献に感謝申し上げます。

(理事長 富永健司)

全国経営協の「実証的研究委員会」のメンバーが調査来園されました



10月2日(火)、全国社会福祉施設経営者協議会(全社協内)の「平成24年度介護老人福祉施設の機能強化の方向性に関する実証的研究委員会」の4名の委員(平田委員長 柿本委員、藤井委員、堀田委員)等が当園にヒアリング調査のため来園されました。

この事業は厚労省老健局の老健事業として経営協が助成を受け、来年3月に報告書を提出するものです。全国2000の特養を抽出したアンケート調査とヒアリング調査(当園も含め全国3か所の特養から先進的な事例を抽出)の2本立てです。

各委員は来園後、特養いずみの園を見学されたあとヒアリングに入り、平田委員長(慈愛会常務理事)のご挨拶をいただき、当法人富永理事長から法人・施設の概要や園の中期プランの説明と、法人本部事務局長、特養部長、在宅サービス部長からの各事業の説明を行いました。

その後、藤井委員(日本社会事業大学大学院准教授)を中心に各委員からの質問に対し、各部課長・主任が実績や所見を述べ、この委員会の目的とする特養の発揮している機能の内容・実態やその評価する基準、さらに施設が果たす今日的意味について各々、有意義な意見交換がなされました。

(法人本部事務局)



第2回法人職員研修会を開催しました

9月21日(金)、九州キリスト教社会福祉事業団の職員(413名)のうち主任以上を主な対象として、当園いずみ館において法人職員研修会が、78名の職員が参加(シオンの園4名、西九州大大学院生4名を含む)して行われました。

まず富永理事長の挨拶のあと、元理事長の齊藤理事から「当法人の成り立ちと理念」について講話があり、「今後ともキリストの愛を放つ法人として尽力してほしい」とのお話があり、続いて4つの研究テーマ(いずみの園2・保育園2)についての発表と新事業等の紹介がありました。



幸主任保育士 橋田主任 廣安園長 角主任

- いずみの園「地域包括ケアシステムの推進」
 - グレース保育園「キリスト教保育の実践」
 - いずみの園「3年目を迎えた小規模多機能型居宅介護」
 - めぐみ保育園「保育の質の向上を目指して」
 - 来年度の法人の新事業等紹介・障がい事業、「共生」型事業について
 - 末延主任引き続き、18時から懇親会があり、19時30分和やかなうちに会を終えました。皆さんお疲れさまでした。
- (法人本部事務局)



人事関係

2012年8月2日以降

1 異動 一般職

- 9月1日付 大神美春 寄り合いセンターいずみ 介護員
- 9月1日付 上羽正美 地域包括支援センター 看護師
- 9月12日付 小屋野重代 介護保険サービスセンター 介護支援専門員
- 10月1日付 中村純子 デイサービスふれんど館 看護師
- 10月1日付 三原美佳 寄り合いセンターいずみ 介護員
- 11月1日付 米光宏恵 デイサービスふれんど館 看護師

2 新採用

- 8月6日付 野中美恵 特養事業部介護課 介護員
- 8月7日付 峰岸真美 訪問看護課 看護師
- 9月3日付 伊藤和代 訪問介護課 ヘルパー
- 9月3日付 北村恵 訪問介護課 ヘルパー
- 9月3日付 芝原千春 訪問介護課 ヘルパー
- 9月20日付 馬場理衣 デイサービス北堀川 介護員
- 10月1日付 末吉亜紀子 デイサービスふれあい館 介護員
- 11月1日付 古園淑子 デイサービス北堀川 看護師

(2012年11月30日まで)

めぐみ保育園



名称…めぐみ保育園

住所…大分県大分市花高松3丁目2-12

めぐみ保育園は、大分市の北部を通る臨海産業道路(県道22号線通称40メートル道路)の日岡交差点から50mほど南東に位置し、閑静な住宅街の中、日本基督教団大分東教会に隣接して建てられた2階建ての保育園です。



大継園長(前列左より4人目)と職員

近くの沿岸部には臨海工業地帯があり、この近辺は商業・住宅地で、働く保護者のため、また教会が地域に根差し仕えるために1968年4月、大分東教会の付設小規模保育園(定員30名)として開設しました。

初代園長は乃美尚敏牧師でした。1971年10月に社会福祉法人めぐみ保育園として厚生省より認可を受け、1976年1月に社会福祉法人九州キリスト教社会福祉事業団めぐみ保育園へ名称変更を行いました。

現在、園児数は108名(定員90名)で職員26名です。現在の園舎は1987年に全面改築し、2001年と2002年に増改築を行っています。

2006年4月より大継徹朗牧師(当法人評議員)が園長に就任されています。



「保育目標」
育ってほしい子ども
の姿

- ・喜び、祈り、感謝する
- ・友だちと仲良く遊ぶ
- ・自分で考え判断する
- ・自然、平和、いのちを愛する
- ・感動し喜ぶことができる



園庭



発表会の練習中

ひろ ば いずみの園広場

在宅ご利用者ご家族の声



いずみの園訪問看護ステーション
永山ミツル様のご家族
永山 郁子様

母が、半身不随になったのは63歳の時で、それから31年経ちました。いずみの園がデイサービスセンターを始めた時からお世話になり、今も元気に通っています。訪問看護が始まってすぐから来て頂くようになり、看護師さんのお話が出来ることが楽しみにしています。

車いすの生活ながら、今日までどうやら自分の事が出来ているのも訪問看護の方々のご指導があったからこそと感謝致しております。(私の言う事は聞かないのに看護師さんの言う事は良く聞く)人に会う事を嫌がりませんし、おしゃべりも好きです。

自分の事は出来るだけ自分でする事をモットーに日々の生活をするように心がけています。

食事もあり好き嫌いはなく、量は少なくなりましたが、ちゃんと三度三度頂きますし、まだまだ、看護師さんたちにお世話になる事と思いますがよろしくお願ひいたします。

私たち家族(母・もも・私)も健康に気をつけて暮らして行きたいと思っています。



在宅ご利用者ご家族の声



デイサービスセンター北堀川
田坂芳子様のご家族
田坂 敬子様

今から6年前に「デイサービスを同じ町内で行います。」といずみの園の方からの挨拶があり、「私も一人暮らしよ。」という母の話から利用を開始することになりました。

以前より日中一人で生活している母にデイサービスの利用を勧めたのですが、聞き入れて貰えず困っていたところでした。その職員の方の笑顔と誘いに戸惑いながらも母は一步踏み出し、今では週に3回通っています。行く日は身支度をはりきって行きます。母なりに輝ける希望の星を見つけた様な気がします。花を活けたり、ゲーム、陶芸をしたりと変化ある時間の流れをたのしんでいるようです。

私は何より職員の方に相談にのって頂き介護の悩みを聞いて戴くことにより介護のストレスが軽減されます。

最近の母の不安は物忘れのようです。何度も同じ事を聞いたり、財布を点検したり etc. それを見たときはつらいのは本人なんだと思える様になりました。介護で大切なことは一人で抱えず大変な根幹は、プロに委ねさせて頂くことが何よりと思います。

私の介護度合いは35点ぐらいでしょうか？本当に感謝しております。

「いずみの園」の職員の方、今後共よろしくお願ひ致します。

